

平成28年度
教育委員会の点検と評価

平成29年6月
川越町教育委員会

目 次

I	点検・評価の実施	… … … … … … … … … …	1
II	点検・評価の目的	… … … … … … … … … …	1
III	点検・評価の対象	… … … … … … … … … …	1
IV	点検・評価の流れ	… … … … … … … … … …	1
V	学識経験者の知見の活用	… … … … … … … … … …	2
VI	実施方法の改善	… … … … … … … … … …	2
VII	自己評価	… … … … … … … … … …	2
VIII	点検・評価	… … … … … … … … … …	3
	・ 教育委員会の活動	… … … … … … … … … …	3
	・ 学校教育分野の活動	… … … … … … … … … …	4
	・ 社会教育分野の活動	… … … … … … … … … …	6
IX	総評	… … … … … … … … … …	8

I 点検・評価の実施

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、一般に公表いたします。

II 点検・評価の目的

教育委員会制度では、教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的、具体的な教育行政の事務・事業を執行します。また、それらが適正かつ的確に執行されているかをチェックし、それをもとに常に改善していく必要性があります。

教育委員会では、より充実した教育行政を進めるとともに、開かれた教育委員会の推進を図り、町民の皆様への説明責任を果たすため、この点検・評価を積極的かつ効果的に活用します。

III 点検・評価の対象

教育委員会が前年度に実施した施策等（事務・事業）を点検・評価します。

IV 点検・評価の流れ

前年度に実施・推進した施策等について、点検・評価を行い、議会への報告及び町民への公表を行います。

■ 実施スケジュール

1	前年度	点検・評価方法の確認
2	4 月	評価項目、取組結果の整理 教育委員会での点検・評価
3	5 月	学識経験者への意見聴取 教育委員会のまとめ
4	6 月	議会への報告
5	7 月	町ホームページ等での公表

V 学識経験者の知見の活用

教育委員会の点検・評価の客観性を確保するため「教育に関し学識経験を有する者の知見を活用」します。

これにより、教育委員会自らが行った点検・評価やその方法に対して公正・的確な意見を述べていただき、この制度の客観性を確保し、効果性を高めま

■ 学識経験者

川越高等学校 校長 丹羽 毅 さん
元・川越中学校PTA会長 平田 敦徳 さん

VI 実施方法の改善

教育委員会の点検・評価の実施方法等については、随時、改善を行い、より良い点検・評価の形を求めています。

VII 自己評価

項目ごとに、目標（達成指標）と取組結果、成果・実績を比較・勘案して、判断基準に従って自己評価を行います。

■ 取組結果の判断基準

評 価		達 成 度
A	実施した	100% 実施
B	ほぼ実施した	70～99% 実施
C	実施がやや不十分	51～69% 実施
D	実施が不十分	50%以下の実施

■ 自己評価（達成度）の判断基準

評 価		達 成 度
A	達成している	90～100% 達成
B	ほぼ達成している	70～89% 達成
C	やや達成していない	51～69% 達成
D	達成していない	50%以下

Ⅷ 点検・評価

No.	施策	目標	平成28年度 自己点検・評価					学識経験者の意見	評価結果	今後の対応	
			取組	結果	成果指標	実績	評価				
I	1 教育委員会会議の適切な開催と運営	(1) 教育委員会会議の適切な開催の推進	①定期的・計画的な開催を図る。	・定期開催日の設定（年間計画作成）	A	・当面の重要課題について、充実した協議が実施されたか。（会議録にて判断）	実施	A	会議録の内容について、事務局からの提案説明が記載され非常に分かりやすくなった。 また、活発な意見交換も行なわれているが、町長との意思疎通を図ったり、現場の教職員の声もどんどん吸い上げたりして欲しい。	A	町長との意思疎通にあっては総合教育会議を通じ、教職員の声の吸い上げにあっては校園長会との合同会議を通じ行なっています。 特に教職員の声については学校・園の風通しがより一層良くなるように働きかけてまいります。
			②必要に応じて速やかに開催する。	・毎月の定例会開催（年12回）	A						
				・臨時委員会の適切かつ迅速な開催	A						
		(2) 効果ある教育委員会会議運営の工夫	①議案や議題を事前に通知する。	・重要事項の議案を事前通知	A						
			②町長と協議・調整を行なう。	・総合教育会議の実施	A						
			③当面の教育課題（学校教育・社会教育）について協議する。	・校園長会との合同開催	A						
	2 教育委員会活動の保護者や地域住民への情報発信	(1) 広報活動の充実	①『川越町教育基本方針』の重点について保護者・地域住民への周知を図る。 ②教育委員会実施事業について、保護者・地域住民に向けて情報発信を図る。	・『川越町教育基本方針』重点のHP掲載	A	・保護者アンケート調査での、「川越町教育基本方針」重点の認知度75%以上	85%	A	PTA総会等において、「川越町教育基本方針」が配布され保護者等への周知を図っていることは承知している。しかしながら、PTA総会等への保護者の参加率の低さから、その内容がどこまで理解されているのか懸念される。 また、保護者だけでなく地域住民への周知も十分に図っていく必要がある。	A	新入生説明会の参加率はほぼ100%に近いが、保護者会となると参加率が下がる傾向にはありません。今後も「川越町教育基本方針」をはじめ教育委員会実施事業の周知についてはHP、イベント時等をより一層活用してまいります。
				・幼小中保護者会及び小学校新入生説明会において、『川越町教育基本方針』リーフレットの配付	A						
				・教育委員会が実施している事業について、広報紙・HP掲載及びイベントへの参加	A						
		(2) 情報の公開	①教育委員会活動の透明性を図る。	・『教育委員会の点検と評価』をHPにて公開	A						
				・開示請求に応じて、教育委員会会議の議事録を開示	—						
3 教育委員の自己研鑽	(1) 今日的教育課題に関する研修	①県教委、市町村教委の研修会等へ積極的に参加する。 ②今日的教育課題に関する先進的な取組への視察等を行う。	・県教育委員会主催の研修会等への参加	A	・教育委員会会議での協議に、研修結果が反映されたか。（会議録にて判断）	反映	B	平成28年度の学習指導要領の改訂に向け、当該改訂に係る研修会に参加され、少しでも現場の状況把握に努めようとしている点は評価できる。 また、たとえば特別支援の必要なお子さんへの理解度がより上がるような研修にも参加していただきたい。	B	先進地への視察を中心に国や県などが実施する研修等、時宜を得た研修に参加してまいりたいと思います。	
			・県内外で開催の研修会・研究協議会への参加、先進施設等への視察の実施（年1回）	B							
4 教育委員による学校及び教育施設の状況把握	(1) 学校訪問の充実	①各校・園のオープンスクール、行事等へ積極的に参加する。 ②教育委員会（会議）を、各校園で実施する。	・学校・園のオープンスクール、行事等への参加（各委員年5回）	A	・教育委員会会議において、教育環境に関する意見等が提案されたか。（会議録にて判断）	提案有り	B	子どもたちへの良い教育には、教職員の働きやすさが必要である。働きやすい教育環境を整えてやって欲しい。	B	教育環境のうち施設の修繕等については計画的に対応しておりますが、今後も緊急的なものについては予算の範囲内において随時対応してまいります。	
			・各校園での教育委員会の開催（各校園1回）	A							
	(2) 教育施設訪問の充実	①各校・園や関連施設の状況を把握し、改善を促す。	・学校・園や関連施設等の訪問と改善点の指摘（随時）	B							

No.	施 策	目 標	平成28年度 自己点検・評価					学識経験者の意見	評価結果	今後の対応				
			取 組	結果	成果指標	実績	評価							
II	学校教育分野の活動 1 指導の重点 ☆一人ひとりが大切にされる教育の推進	(1) 確かな学力の育成<知識・技能・知恵>	・図書館司書の配置（各校園週1回）	A	・「読書がすきである」の肯定回答が80%以上 ・CRTの到達度評価(小→2以上, 中→3以上)が80%以上 ・「普段の授業で友達と話し合う活動をしている」の肯定回答が90%以上 ・「学校で決められた家庭学習を毎日している」の肯定回答が80%以上 ・「進んで学習に取り組んでいる」の肯定回答が80%以上	76% 82% 89% 81% 85%	B	学校の取り組みは全体としていい方向に向かっていると思われる。読書の推進は必要であり幼少期からの積み上げが大切である。「読書登山」の取り組みはおもしろいが保護者に少し伝わりにくいところがあるので創意工夫をすべきである。学力定着や家庭学習の充実には、学調の結果だけにとらわれず、個々の伸びを大切に、話し合いとなる課題設定や、家庭学習につながる授業づくりが大切である。また、家庭での環境整備も不可欠であり、そのためにもより一層の保護者との連携を大切にされたい。	B	言語力の育成を目指し、今後とも各校園での読書活動を充実させ、保護者への積極的な発信と共に、町全体での読書活動の推進に継続して取り組みます。また、子どもたちが自ら学習しようとする気持ちを醸成するよう、アクティブラーニングの研究をより一層進めます。ネットモラルをはじめとして、家庭生活や家庭学習について保護者主体となった家庭教育講座の実施等、今後も効果的に啓発できるよう、保護者・学校が連携して実施していきます。				
			・基礎学力充実加配教員の配置（小中・週30時間以上の少人数授業の実施）	A										
			・CRT（学力検査）の実施と分析、児童生徒へのフィードバックに係る助言	A										
			・川越町学力向上推進委員会の開催	A										
			・学び合う保育・アテイブラーニングを目指した授業を推進するための指導主事訪問（全教員に対して、年1回以上）	A										
			・日本語指導員の配置（4名）	A										
			・「家庭学習の手引き」の作成・配布（全教員・保護者（来入児含む）対象、HP掲載）	A										
			・「川越スタンダード」による授業改善の推進・充実した実践	A										
			・人権教育カリキュラムに沿った人権教育の推進（小中）	A							・全国学力・学習状況調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定回答が90%以上 ・「ていねいな言葉づかいができた」の肯定回答が80%以上 ・「学校のきまりを守っている」の肯定回答が80%以上	97% 82% 89%	A	「命を大切に教育」や「法やまきまりを遵守し、自他の権利を尊重する教育」の推進など、道徳教育のより一層の充実に取り組みます。職場体験学習や自然教室など、人と自然とのふれ合いを通して、地域の職業人の話を聞くと共に、学校行事における地域協力者との交流を計画的に盛り込み、規範意識の高揚や場に合った話し方などについて考える機会を積極的に創っていきます。
			・「自然教室」の実施（小中、全額公費負担）	A										
・「自分発見！地域ふれあい事業」の実施（中）	A													
・三重郡子ども人権フォーラム21を協働して実施	A													
・いじめに関する実態調査の実施（小中・学期に1回以上）	A													
・広報・HPを通じた『ていねいな言葉づかい』の地域への啓発（広報・年2回以上）	B													
・部活動等、大会行事の参加に必要な経費の助成	A	・「進んで運動に取り組んでいる」の肯定回答が、80%以上 ・「新体力テスト(小5、中2)」における総合判定C以上の割合が、70%以上 ・各学校・園の危機管理体制を見直し、必要とする内容で年間計画通り実践したか。	85% 76%	A	川越町ではスポーツに関心を示し、部活動等、一定の成果が見られて良い。食育については、栄養教諭等が中心となり、家庭も交えてバランスある食事の大切さや健康への意識を高められた。定期的な防災教育は評価できるが、さらに子どもたちが相互扶助の観点から地域の人を助ける気持ちを持てるようにされたい。									
・養護教員部会と連携した、学校保健に関する学習会等の実施（年1回以上）	A													
・栄養教諭が係った、食に関する授業の実施（各小中 year 1回以上）	B													
・新体力テストの継続実施	A													
・防災にかかわる授業の推進（授業・防災内容の充実）	A													
(3) 健やかな身体 の育成 <運動を楽しむ力・健康安全意識>	①運動（遊び）の生活化を図る。	①運動（遊び）の生活化を図る。 ②保健・体育の授業の充実を図る。 ③自らの健康を管理・改善する資質や能力の育成を図る。 ④日常生活に生きる安全教育の充実を図る。	・部活動等、大会行事の参加に必要な経費の助成 ・養護教員部会と連携した、学校保健に関する学習会等の実施（年1回以上） ・栄養教諭が係った、食に関する授業の実施（各小中 year 1回以上） ・新体力テストの継続実施 ・防災にかかわる授業の推進（授業・防災内容の充実）	A A B A A	85% 76%	A	川越町ではスポーツに関心を示し、部活動等、一定の成果が見られて良い。食育については、栄養教諭等が中心となり、家庭も交えてバランスある食事の大切さや健康への意識を高められた。定期的な防災教育は評価できるが、さらに子どもたちが相互扶助の観点から地域の人を助ける気持ちを持てるようにされたい。	子どもたちの体力向上を目指し、運動を楽しむ教育環境の整備に努めます。食や健康への意識を高める教育活動をより一層計画的・積極的に進めます。防災教育については校園長会での情報共有と共に、県の防災教育事業を積極的に活用するなど、多様な体験ができるよう推進していきます。						
	②保健・体育の授業の充実を図る。													
	③自らの健康を管理・改善する資質や能力の育成を図る。													
	④日常生活に生きる安全教育の充実を図る。													
	⑤『ていねいな言葉づかい』の定着を図る。													

No.	施 策	目 標	平成28年度 自己点検・評価					学識経験者の意見	評価結果	今後の対応	
			取 組	結果	成果指標	実績	評価				
II 学校教育分野の活動	2 研修の重点 ☆ 教師の学びを支える研修の推進	(1) 学ぶ喜びを実感できる授業の推進	・保育・授業公開時の、指導主事の事後検討会への参加	A	・「一人ひとりが主体的に取り組めるような指導の充実を図っている」の肯定回答が90%以上 ・「先生はていねいな教え方やアドバイスをしてくれる。」の肯定回答が80%以上	97% 90%	A	小中共一生懸命に取り組めており、子どもたちも教師の方をしっかりと見て学習できている。一方、その部分が見えにくいところもあり、紙面での報告など、積極的な情報発信も必要である。また、教師間に指導力の差があるのも現状で、今後は自主的な研鑽を含め、教師の授業改革にも積極的に取り組んでほしい。	A	学習指導要領の改訂に向け、国の方向性や新しい視点での学習の在り方について十分に理解を深め、各校園内の研修会で外部講師や北勢教育支援事務所指導主事を要請するなど、子どもたちの生きる力を高めるための学力向上が図れる授業作りの研究に努めます。	
			・授業改善や学力向上に関する外部指導者の紹介、研修会等の実施方法について支援（各校3回以上の開催を推進）	A							
			・町研究員制度を活用した教職員への還流報告の場の設定（夏季教職員研修会）	A							
			・授業力向上に向けた、学力向上アドバイザー及び特別支援教育スーパーバイザーの配置	A							
		(2) 生徒指導の充実と学級づくりの推進	①生徒指導の充実の推進を図る。 ②学級づくりの推進を図る。 ③主体的に粘り強く取り組む活動の推進を図る。	・指導主事による、児童生徒の実態把握のための学校訪問及び指導・助言	A	・「自分にはよいところがある」の肯定回答が80%以上 ・QU調査の「要支援群」の減少（1回目と2回目を比較） ・問題行動等報告の件数が、昨年度より減少 ・不登校児童生徒数が昨年度より減少	71% -12 問題行動 -2 不登校 +2	C	不登校児童が増えたことは残念であるが、年々中学校での生徒の落ち着きが見られるようになり安心している。教師の日々の指導改善が大切であり、今後とも教師と子どもの望ましい信頼関係の下、きめ細かい指導の積み重ねを実践されたい。	B	学校・家庭・地域とがより一体となった教育環境の整備に努めます。また教師と子どもとの信頼関係を深めるため、教育相談を定期的実施し、きめ細かい子どものニーズに対応できる人間関係を構築するよう努めます。
				・こども・家庭相談支援係等との連携推進	A						
	(3) 今日的教育課題に対応した研修の推進	①学ぶ意欲の低下、人間関係の希薄化、規範意識の低下、耐性の欠如、自立性の不足、自己中心性等に対応する教育活動の重点に関する研修の推進を図る。 ②園・校の実情に応じた特色ある教育活動の推進のための外部講師を招聘した研修を開催する。 ③特別支援教育を推進するための外部講師を招聘した研修会の推進を図る。	・町教委主催教職員研修会の実施	A	町教委主催の教職員研修会アンケートにおいて、肯定回答が90%以上	100%	A	今後も教師の資質向上を目指した実りある研修会を企画されたい。一方で教職員アンケートの信憑性を高めるためにも、今後は「大変よかった」の教に注目すべきである。また適切な指導・支援については、一般的な研修ではなく、ケース会議に特別支援教育アドバイザーを要請することも必要である。	A	教職員アンケートの「大変よかった」の教に着目しながら、今後も教師の授業力向上を目的とした研修の企画に取り組みます。幼小中の接続だけでなく、中高のつながりを意識しながら義務教育のうちにつけるべき力を確認し、社会人の一人として自立するための力をつけるよう、ていねいな助言・指導に努めます。	
			・主任等研修会や各種担当者会議など、子どもたちの課題把握と今後の方向性について確認する場の設定（年3回以上）	A							
			・適切な指導・支援のための、特別支援教育アドバイザーの配置	A							
			・特別支援教育に関する外部指導者を招聘した研修会の実施（年1回以上）	A							
	3 経営の重点 ☆ 信頼される園・学校づくりの推進	(1) 開かれた園・学校づくりの推進	・保幼小中連携にかかわる公開保育・公開授業の実施	A	・保護者アンケート「学校公開や各種通信、HPなどを通じて学校の情報を発信している」の肯定回答が80%以上 ・学校・園支援ボランティアの参加数の累計が年間100人以上で実施されたか。	93%	B	地域や保護者からも良い情報がよく入ってきており、今後もオープンスクールやHPの定期更新など、継続的に行っていくべきである。一方、小学校での教師の一体感が見えづらく、校種間の交流を積極的に進められたい。	B	HPや各種通信を通じて各校園の最新情報を定期的に発信していくことに努めます。また保護者や地域の細かい意見にも耳を傾け、保護者アンケートの実施等、各校園に対するニーズを的確に把握することに努めます。	
			・学校・園オープンスクールの実施	A							
・地域の教育力の活用を支援（地域教材・地域人材の活用支援）			A								
・学校・園支援ボランティアの拡充			B								
(2) 人材育成の推進		①教職員自らが資質・能力の向上に取り組める環境を設定する。 ②教職員の課題に応じた研修会を実施する。	・「教職員育成支援のための人事評価制度」の適切な運用の指導	A	・管理職への聞き取り	100%	A	まずは教職員自身の自主研鑽意欲が大切であり、管理職との面談も「人材育成」という視点からの聞き取りによって、より質の高い教職員の育成を目指すべきである。	A	管理職との期首面談・中間面談の実施によって各教職員の課題・目標を定期的に評価・改善し、教職員それぞれの個性と能力が最大限に発揮されるよう助言します。	
			・川越町教育研究員制度の継続と、それを活用した自主研修の推進（幼小中、研究員15名）	A							

No.	施策	目標	平成28年度 自己点検・評価					学識経験者の意見	評価結果	今後の対応					
			取組	結果	成果指標	実績	評価								
II	学校教育分野の活動 3点 経営の重点 ☆信頼される園・学校づくりの推進	(3) 安心・安全な環境整備の推進	①安全で楽しく過ごせる園・学校施設の改善を図る。	・警察や関係機関と連携した防災・防犯教室の実施の促進(幼小中)	A	・学校アンケート「学校は、緊急時の対応など、危機管理体制に気を配っている」の肯定回答が90%以上	96%	B	危機管理意識という点ではまだまだ教師の意識が低いと感じる。特に小1(新入児)の集団下校においてうまく引き継ぎができていないところがあった。 不審者への対応については、川越高校やスクールサポーターとも連携しながら互いに情報共有しつつ対応していくべきである。 施設改善については、引き続きお願いしたい。	教師一人ひとりの危機管理意識を高め、地域の危険箇所を定期的に調査し、随時校区安全マップの加筆・修正に努めます。 また、これまで以上に避難訓練の質を高め、教職員と子どもの危機管理意識の向上を図り、スクールサポーターの活用等により不審者から子どもの被害を守るネットワーク作りに努めます。					
			②警察や関係機関と連携した安心な園・学校づくり推進を図る。	・「絆ネット」を活用した不審者情報等の発信(幼小中)	A										
③地域と連携した未然防止策の推進を図ること。	・小学校新入生に校区安全マップの配布		A												
④教職員の危機管理意識の向上と各園・校の危機管理マニュアルの日常적인見直しを図る。	・学校施設(危険箇所の修繕など)の改善(幼小中)		A	+4件											
(4) 学校経営手法の定着	①学校教育ビジョンを策定し、その実現のための積極的な教育活動の推進を図る。		・「川越町教育基本方針」の町研修会での周知(幼小中)	A	・学校自己評価の報告(ビジョンに対して成果と課題が考察され、改善策が練られているか。)						良好	A	学校自己評価に基づく学校関係者評価会議の実施・結果の公表など、一定の定着はなされている。	A	今後とも保護者との定期的な懇談会を継続実施し、これまで以上に学校関係者評価会議の内容を充実させ、学校からの発信だけでなく、学校に対する評価やニーズを的確に把握し、随時学校経営手法の反映に努めます。
	②保護者や児童生徒からのアンケートを活用しながら「学校自己評価」の実施を図る。		・「特色ある教育活動補助事業」の実施	A											
III	社会教育分野の活動 1 人づくり・まちづくり	(1) 明るい家庭、住みよい地域社会づくりの推進と青少年の健全育成の充実	①家庭教育の推進	・「あいさつ・声かけ運動」の発展に向けて、あいさつ+1(ぶらすわん)参加者の増に向けた取組の実施	A	・あいさつ+1(ぶらすわん)登録者数の増 単年度増加30名	249名増加	円滑に実施	あいさつ・声かけ運動については増加しており、今後も地道な取り組みを続けることが大切だと思う。 子ども110番の家の取り組みについて、かわら版を作成するなど、今の状況がよくわかり意識向上につながりよい。非行防止活動について、基となる家庭環境を基本に、学校、地域ぐるみで子ども達を見守っていく事に期待する。	あいさつ・声かけ運動(あいさつ+1)を着実に浸透させるよう引き続き努力していきます。 子ども110番の家の協力者増加に努め、関係者等との連携を深めながら、地域ぐるみで子ども達を見守っていくよう努めます。					
			②青少年の健全育成	・非行防止補導活動の実施(年16回)	A						・成人式の実行委員による自主的な企画と運営の実施	81件	B		
③三世代交流(ふれあい活動)の推進			・「子ども110番の家」と関係者等の連携会議の開催と内容の工夫	A	・少年非行概況による補導状況で、川越町が管轄となる交番の「深夜はいかい」の件数が192件以下										
④「あいさつ・声かけ運動」(あいさつ+1)の推進			・総合型地域スポーツクラブFAGにて体験事業の実施	A	・三世代交流事業の実施(10地区)						A	・三世代交流事業参加者数の増(前年比3%増)	2%増	未実施	
⑤「川越町安全なまちづくり指針」に基づく関係機関等との連携の推進			・成人式の実行委員による企画と運営	A	・家庭教育及び「あいさつ・声かけ運動」啓発事業講演会の開催						A	・家庭教育及び「あいさつ・声かけ運動」啓発事業講演会でアンケート調査を実施し「意識の向上に役立った」の回答率が80%以上			
2			思い合うまち	(1) 心豊かで活力と連携に満ちた地域づくりの推進	①人権尊重社会の実現をめざした町組織の充実						・人権・同和教育推進協議会役員会の開催(3回)	C	・学習会及び研究大会への参加者アンケート結果で「人権意識向上」の回答率が80%以上	77%	B
	②人権問題への正しい理解と認識、主体的活動の推進	・参加型人権・同和学習会を実施(5回)			A										
	③人権啓発活動の推進	・三重県人権・同和教育研究大会へ参加			A	・参加型人権・同和学習会参加者数の増(前年比5%)	28%増								

No.	施策	目標	平成28年度 自己点検・評価					学識経験者の意見	評価結果	今後の対応	
			取組	結果	成果指標	実績	評価				
III	社会教育分野の活動	3 学び合うまち	(1)いつでもだれもが学べる生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> 中央公民館を中心に高齢者から小学生までを対象とした講座を開設(23教室) 「学ぶ楽しさ感」を伝えるため、講座等の活動の様子をHP等に掲載 愛好会新規会員募集の支援 川越富洲原駅構内ショーケース及び役場ホールに愛好会等の作品の展示 魅力ある図書室経営の工夫(貸出冊数前年比3%増) 読み聞かせ・お話の会の開催(24回) MLK連携事業の推進 	A A A A A A A	<ul style="list-style-type: none"> 講座受講者にアンケート調査を実施、「満足」以上の回答率が80%以上 新規受講者数の増加 図書貸出冊数の増加 MLK連携事業の実施 	98% 14名減 4%増 実施	A	公民館講座について、今のニーズに対して何を学んで欲しいかを把握していく必要がある。またSNSやLINEなど保護者が危険性、操作性を理解出来ていないため、時代にあったニーズに対する講座の開設を望みます。読み聞かせ・お話し会について、読書に力を入れるという事で、より一層力を入れて推進して欲しい。	A	時代のニーズにあった講座について検討していきます。読み聞かせなど、小さな頃から本に親しむ機会をより提供出来るように取り組んでいきます。
		4 文化の薫り高いまち	(1)文化芸術に親しむ機会の充実、地域文化の保存と継承	<ul style="list-style-type: none"> あいあいホール自主事業の内容を企画委員会で検討し、町民の意見を反映した多様な分野のメニューの提供 町内の方を対象に、あいあい自主事業の内容についてアンケート調査の実施 文化祭における芸術・芸能の発表機会の提供 町指定無形民俗文化財映像ソフト、文化財調査実績の活用 町内施設等において資料館所蔵品の一部の展示 HPにおいて、あいあいホール自主事業などの情報を随時提供 	A A A A A A	<ul style="list-style-type: none"> あいあいホール自主事業において入場者アンケートを実施し、その結果において、「たいへん満足」「満足」の回答率が80%以上 あいあいホール自主事業の内容についてのアンケート調査回収率(町民の3%) 資料館所蔵品の展示と説明について感想を募り、その感想により判断 	94% 2% 未実施	C	町内のイベントは、地域住民の絆作りのポイントにもなる。今後も定期的に継続して欲しい。文化財については、引き続き広報、啓発活動を推進します。また、新たなイベントや期間限定の展示イベントなど、工夫した取り組みをお願いしたい。	C	今後も定期的にイベントを継続していきます。文化財については、引き続き広報、啓発活動を推進します。また、新たな取り組みを検討していきます。
		5 心身ともに健やかなまち	(1)スポーツの振興推進と健康で心豊かなまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> チビッコドッジボール教室、ソフトテニス教室、シェイプアップ教室、ハイキング等の開催 「運動する楽しさ感」を伝えるため、教室等の活動の様子をHP等に掲載 体育協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブFAGの活動の維持継続 各活動への講師の派遣(8回) 総合運動場の施設及び運動用具等の維持管理の充実 	A A A C A	<ul style="list-style-type: none"> 教室等の参加者に対してアンケートを実施し、その結果において「満足」以上の回答率が80%以上 教室参加者数の増 スポーツ施設の利用団体数及び利用者数の増 	100% 8名増 団体数0.5%減 個人数21%増	A	幼少期からスポーツに親しむ風土があり素晴らしいと感じている。ハイキングなども工夫を凝らしたものにすると、今後も町民の健康づくり、多様なスポーツ振興の取り組みをお願いしたい。	A	今後も、広報や啓発を行い、町民の健康づくりやスポーツの普及・振興を図ります。また趣向を凝らしたハイキングの実施などに取り組んでいきます。

IX 総 評

平成28年度の各施策に対する自己点検・評価をさせていただきました。

教育委員会といたしましては、教育基本方針に基づき学校教育、社会教育両面から諸種の事務事業に取り組んでまいります中で、平成28年度には、人づくり・町づくりの観点から「あいさつ・声かけ運動啓発&あいあいホール20周年記念事業」を実施し、あいさつ・声かけ運動、家庭教育等の一層の啓発推進を図りました。

中学校の部活動におきましては吹奏楽部及び男子駅伝が全国大会に出場し、なかでも男子駅伝は8位入賞という栄誉に輝きました。また、世代を越えて参加する「美し国市町対抗駅伝」におきましては町の部三連覇を達成するとともに、陸上少年団が全国大会に出場するなど、部活動やスポーツ面での活躍をはじめ諸種の事務事業は、教職員や社会教育関連団体の方々の頑張りに支えられております。

このように教職員や社会教育関連団体の方々の頑張りに加え、保護者や地域の方々のご協力もいただく中で近年、児童生徒に落ち着いた姿が数多く見受けられるようになりました。

今後も教育委員会が一体となり学校教育・社会教育を推進してまいりたいと考えております。お力添えをよろしくお願いいたします。